

■ 第3回 第2次宇多津町総合計画審議会 意見及び対応一覧 ■

委員名	意見内容	事務局の答弁	担当課での対応
久保氏	<ul style="list-style-type: none"> ・全体 年度と暦年の使い分けをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回までに内部で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「年度」は 4 月～3月までの1年間、「年次」(暦年)は 1 月～12 月を指し、財政データ等の行政データは基本「年度」、経済センサスや工業統計等は「年次」である。使う統計データによって「年度」「年次」が違うので、単純に「年度」を入れてしまうと、戸惑いが出る可能性があるため、本計画書では、単に「令和●年」という表記に統一している。 ただ、ご指摘も踏まえ、最初の指標がでてきた箇所に、「※本計画書においては、データの時点表記は「年度」「年次」の両方があるが、ここでは表記区分をすべてにつけると、かえって分かりにくくなること、出典名によってその区分は遡ることができること等を踏まえ、「年」の表記に統一した。(以下、同様)」といった注釈をつける予定。 <p>【まちづくり課】</p>
青木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・重点施策5の「コミュニティの再生と地域福祉の推進」の中にあるコミュニティだが、若い人が自治会等の団体に加入していないという現状をどうフォローするかが課題である。 ・これからの地域は若い人が育てていくという観点からいけば、学校の PTA や幼稚園の親会といったところを通して地域コミュニティに繋がっていくのではないかと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回までに内部で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見いただいたとおり、子育て現役世代のネットワーク等を活用し、地域コミュニティの再生のヒントを得られればと考える。 ・自治会のみならず、自主防災組織や、地域学校協働本部とも連携し、地域ぐるみでコミュニティ組織の形成に努める。 ・地域コミュニティ形成の重要性について、周知する機会を創出するよう取り組んでいく。 <p>【住民生活課】 【教育委員会】 【危機管理課】</p>

委員名	意見内容	事務局の答弁	担当課での対応
加野会長	<p>・本町はマンションが多い。居住者はマンションの管理組合には入るが、地域での清掃活動等へは参加しないといった状況がある。まちづくりにとっては大事なポイントではないか。</p> <p>・広報誌を各家庭に届けるためには、自治会等のある程度の組織がないと届かない。</p>	—	—
尾藤委員	<p>・ボランティア連絡協議会には20団体が加入しており、社協関係等さまざまな活動をしているが、参加者が年々高齢化しており、中間層が育たない。結果として支援者が増えない状況にある。各団体で活動が確実に確保できる方向性を見つけないといけない。例えば、高齢者の買い物、通院ができないといった状況等。</p> <p>・それに関連してコミュニティバスの不便さ及び近隣とのコミュニティバスの導入等、その辺を進めてほしい。</p>	<p>・次回までに内部で検討する。</p> <p>・このうち、コミュニティバスについては、10月から坂出のバスが乗り入れているが、宇多津町のバスと坂出のバスの乗り継ぎが今のところうまく行っていない。それを踏まえ、停留所や乗り継ぎの時間、乗り継ぎ場所等について、アンケート等を取っており、早急に利便性の良いものにしていこうとしている。</p> <p>・今、バス自体が一台であり、コースのこと、行き帰りの時間が分からない、乗り方が分からないといった問い合わせがあればまちづくり課の方に連絡いただきたい。また、乗る時から降りる時、帰るまで寄り添ったりしているので、それも希望があれば、まちづくり課の方に連絡いただきたい。</p>	<p>・(ボランティア関係) 社協通信などによるボランティア団体の活動を紹介する情報提供に、引き続き取り組みたい。</p> <p>【保健福祉課】</p> <p>・(コミュニティバス関係) 対応については同左。</p> <p>【まちづくり課】</p>
松沢委員	<p>・①P117 ゴミ収集量は令和4年で6,173tが令和10年には6,000tに減少している。これは人口が減少すれば達成されるものであり、比較するならば事業者数とか人口当たり等の指標にするなど、町全体としてなるべくゴミを出さないようにするといった評価が必要ではないか。</p>	<p>・ゴミ収集量に代わる指標のチェック</p>	<p>・評価指標を「1人1日当たりゴミ総排出量」に変更する。 現状値:920g/人・日(令和4年) 目標値:912g/人・日(令和10年)</p> <p>【住民生活課】</p>

	<p>・②P107 河川清掃ごみ回収量は令和4年で3,420kgが令和10年には3,500kgに増加している。これは、考え方として、現在、回収しきれないものを回収しようということなのか。</p> <p>・もう一つの方向性としては、町全体で、SDGsを進めていく上では、ポイ捨てをなくし、川下に流れていかないようにするのが大原則であり、これを徹底することにより、そもそも回収しなくてもいいという考え方ではないか。どっちの立場かを議論した方がいい。</p>	<p>・河川清掃ごみ回収量に代わる指標のチェック</p>	<p>・当初の指標は、回収量を増加させる指標であるが、意図としては回収を手伝ってくれるボランティアの増加等による回収量の増加を見込んでいた。</p> <p>ご意見等も踏まえ、評価指標を「参加者1人1時間当たりごみ回収量」に変更する。</p> <p>現状値:28.5kg/人・h(令和4年) 目標値:20.0kg/人・h(令和10年)</p> <p>【住民生活課】</p>
	<p>・③P86 具体施策③の「つくり育てる漁業」はかなり前から言われて、時代遅れの感がある。</p> <p>・これからは、P87の漁獲量の多さではなく、漁獲量は同じくらいか少なく設定するが、漁業者の皆さんにとってはきちんと資源管理をして、なおかつ美味しく、付加価値の高いものを高く消費者に買ってもらう、それで賄えるという方向性ではないか。</p> <p>・その下の「養殖業や観光との連携」はいいと思うし、単に獲る漁業だけではなく、環境教育という視点は必要である。</p> <p>・CPUE*という指標がある。たくさん獲れたので、いいのではなく獲り過ぎないのがいい。ただ、指標の目標値の設定は難しいものがある。指標としては「お金」の話、収入の話に持っていった方がいいかもしれない。ただ、これも数値設定が難しい。大切なのは、漁獲量に見合っ、積極的に食卓で食べてほしい。これと食育と一体化して推進しないとイケない。</p> <p>※【CPUE】単位努力あたりの漁獲量=「一本 or 一網 or 一隻でどれだけ獲れたか」のこと。対象種の豊富さの間接的な尺度であり、単位努力あたりの漁獲量の変化は、対象種の真の豊度の変化を意味すると推測される。CPUEの減少は乱獲を示し、CPUEが変化しない場合は持続可能な収穫を示すもので、CPUEには、資源量を測定する他の方法よりも多くの利点がある。</p>	<p>・漁獲量に代わる指標のチェック</p>	<p>・ご指摘を踏まえ、水産業の部分の文章を修正した。また、成果指標については公表できる代替りの指標がなかったため、「漁獲量」のままとし、現状を維持する目標値に修正した。</p> <p>【地域整備課】</p>

委員名	意見内容	事務局の答弁	担当課での対応
加野会長	<p>・国際交流から言えば、宇多津町は外国人が多い。特性として反映されるといい。ところで、姉妹都市連携はあるのか。</p> <p>・藤井学園の100周年のセレモニーの時に、学校間のつながりが縁で、ドイツの元大統領がきていた。高松市も中国南昌との姉妹都市を締結している関係で、学校も南昌との交流を促されている。</p>	<p>・姉妹都市連携はない。</p> <p>・部分的なものとして、中学校は以前、ベトナムに行っていた関係で、ベトナムの政府の方が来られて、交流を深めた経緯がある。</p>	—
亀井委員	<p>・アルバイトでレジをやっていたが、宇多津町は外国人が多い。身近に触れ合える場が増えるといい。</p>		<p>・生活する上で必要な日本語を習得することを目的として、町内に在住・通勤・通学する外国人の方を対象に、日本語教室を設置している。令和5年度は、6月から2月の第1・3日曜日、10時～11時30分の時間帯、計18回を予定。8月には、防災訓練、交通安全教室が開催され、水消火器を使った消火訓練、AEDを使った搬送訓練、起震車を使った地震体験及び交通安全教育車「まなぶちゃん」を使った反射神経テスト等を実施した。</p> <p>教室は、日本語教師の他、学習支援するボランティアサポーターのご協力の下、実施している。参加される外国人の国籍、日本語の習得レベルは様々なので、教室の円滑な運営のためには、ボランティアサポーターの協力が必要である。ご興味があれば、ぜひ一度お越しいただけたらと思う。</p> <p>【まちづくり課】</p>

委員名	意見内容	事務局の答弁	担当課での対応
橋本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P41 高齢者福祉のところ、要介護に対して取り組みたいことが中心となっているが、要介護になるまでの段階にある要支援については、あまり触れられていない。 ・要支援から要介護になるまで結構ハードルが高く、その間の家族の負担が大きい。 ・今後、高齢社会が進行する中、要支援は増えてくるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉課の方で、介護保険の事業計画づくりを進めている。障害者計画も同様である。 今後、この計画を踏まえて現状の取組と今後の方向性を加えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、p.42 の具体施策①の主要事業に、「介護予防サポーター養成事業」を追加する。 なお、p.34 の具体施策②、施策内容の4・5つ目の●に、介護予防事業について記載している。 <p>【保健福祉課】</p>
久保氏	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会では、毎年、介護と相続とのセミナーを開催しており、それにプラス空き家対策についてもセミナーを開催している。 ・町とも空き家対策についてのセミナーを開催しているが、なかなか解決策は難しい。 ・方向性がうかがえるものであれば、データのほうかと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P97-98③空き家の推進のところ、今後の空き家対策の検討の方針などをあげ、マッチングシステム等の構築も取り組んでいる。現状の課題等も把握して、検証しながら進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左。 <p>【まちづくり課】</p>
加野会長	<ul style="list-style-type: none"> ・こども大綱の案が出されており、それに合わせ、従来の子ども・子育て支援事業計画に加え、子どもの貧困、また引きこもり等に対する若者支援も重要な課題となっている。 ・本町においても、無視できない問題である。そのような中、子ども食堂は県下では主導的立場でされている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援センターに相談窓口を設置するとともに、令和4年度には関係機関と連携するための「ひきこもり支援プラットフォーム」も設置し、若者の引きこもり支援に取り組んでいる。 なお、令和6年度に「第3期子ども子育て支援事業計画」を作成予定であり、具体的な施策を検討したい。 <p>【保健福祉課】</p>
川瀧委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「うたづ おしこくさん(お遍路さん)」の拠点が売却という話になっているが、次の拠点が欲しいという声を聞く。貸してほしい声はイギリスやフィンランド等外国人が多いが、(来た人のほとんどが)素通りするのがもったいない。何かこのようなものがあればと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見はいただいている。なんとかできる形で進めてまいりたいと検討している。具体的ではないが、まちづくりの視点から続けていきたいと思っている。しばらく待っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き検討を実施する。 <p>【まちづくり課】</p>